

目標設定	部署責任者	部門長	センター長
目付			

地域住民及び患者から信頼され、質の高い効率的な急性期リハビリテーションを提供する

	部署事業戦略	部署事業成果KGI	ターゲット（目標）	重要成功要因（CSF）	プロセスKPI	ターゲット（目標）	重要成功要因（CSF）	アクションプラン
財務	収支状況の安定化	年間スタッフ1人あたり診療報酬請求額 入院患者リハビリ処方率	18単位 31.6%	収益確保 コスト管理 新規患者の獲得	1日取得単位数 総合実施計画書取得率 退院時リハビリテーション指導取得率 早期加算取得数 初期加算取得数 診療科別入院新規患者リハビリ処方率	18単位（新人は7月から） 外未：がんB95% 整形・心リハ：がんA・ユニート90% 総合内部・脳外・小児・SQU・ST85% 197526件 136386件 腫瘍内科37.7% 消化器内科17.9% 腎臓内科36.4% 小児科5.4%	日々の取得単位数管理 早期作成、取得管理、病棟との連携 退院予定の管理 早期リハの推進 各診療科とのネットワーク強化	1日の取得単位数が18単位以上となるように各科主任が班員の取得単位数を管理する。 計画書取得管理表に基づき作成状況、取得状況の管理を行う。搬送、電話説明も1日1取得率の向上を目指す。 退院予定を管理し取得を促すとともに、毎月の取得率をフィードバックし取得率の向上を目指す。 多職種で連携し、発症・前後早期からのリハ介入を目指す。 担当病棟の集約化や病棟専従スタッフの配置により病棟や診療科との連携を強化する。
顧客	予防から治療まで一貫した質の高いリハビリテーションサービスの提供	疾患別FIM効率（開始時FIM100点未満の患者） 入院患者の退院後リハビリサービス移行数 地域向け事業延べ参加者数	脳血管1.62点/日 運動器1.32点/日 呼吸器1.39点/日 心大血管2.47点/日 療用1.40点/日 がん1.73点/日 368件 320人/月	患者満足度の向上 予防から終末期に至るまでの質の高いリハビリサービスの提供 地域（住民・連携施設）からの信頼度向上	入院患者1人あたり実施単位数 365日体制の導入班数 年間リハビリ実施患者の転倒・転落率 外来リハビリ移行数 退院後リハビリサービス導入数 地域住民向け健康体操参加者数 地域住民向け評価事業参加者数	脳外27単位 ユニート・SQU2.5単位 その他2.0単位 5班 2.8% 264件 72件 265人/月 55人/回	質・量ともに高いリハビリテーションの提供 適正人員配置 適正人材配置 病棟との情報共有 シームレスなリハ提供 地域との連携強化 オンライン開催を視野にいたった事業展開	入院患者1人あたり1回にかかる時間を40分～60分以上確保することで、細やかな評価、質量ともに適切なリハビリを提供する。また、各スタッフの担当患者数を管理し、担当患者数の適正化を図る 適正人員配置により段階的に365日体制移行を推進して随時転倒リスク評価を実施し、病棟との情報共有を図ることで転倒・転落事故の発生を未然に予防する。 外来リハや地域との連携を強化し、シームレスなリハサービスの提供へと繋げていく。 地域住民に対する事業を定期的に開催し、地域住民の健康増進に寄与するとともに、地域住民からの信頼獲得へと繋げていく。
内部	①根拠に基づいた疾患別リハの提供 ②地域におけるリハ提供体制・教育体制の構築 ③健康経営の推進	疾患別データベースからのデータ分析数 みなし訪問リハ延べ件数 ジェネラリスト養成コース進捗率 入職者数の目標達成率 職員向け健康増進事業延べ参加者数	12件 837件 100% 100% 50名	医療の質向上に向けた取り組み強化 地域における小児部門の地域連携 地域一体型卒後教育システムに向けた取り組み ICTを活用した学習・教育環境の整備 ICTを積極活用したリクルート活動 健康経営の推進	疾患別データベースの運用数 みなし訪問リハ実施班数 ジェネラリスト養成コース進用人数 近隣施設向け研修会数 全道向け研修会数 TRAIN観断症例検討会数 オンライン就職説明会 臨床実習受け入れ数 専門学生向け実践型セミナー 50歳以上職員向け運動器検診受診者数 腰痛予防教室受講者数	心臓500件 肺病80件 TKA30件 軽症CVA150件 VE45件 動作解析150件 訪問リハ45件 ユニート80件 食道癌20件 COPD20件 間質性肺炎20件 椎骨遠位端骨折60件 1班 2 2回 6回 2回 21回 74人 1回 20名 30名	データベース入力管理 各班長期研究計画の推進 地域との連携強化 各班長期研究計画・管理方法の確立 ICTを活用した研修システムの確立 ICTを活用したリクルート活動 効果的な広報活動 多様な対象者に対するコンテンツ整備	疾患別データベースを活用することで、評価・治療の標準化を図る。また蓄積されたデータを分析し、予後予測に繋げたリハビリ介入へと繋げていく。 家庭医療クリニックをはじめ地域と連携し、訪問リハサービスの提供を開始し、地域のリハニーズに応えていく。 部内での運用から開始し、将来の対外的な運用に繋げていく。 対外的な研修会を積極的に企画運営し、地域のリーダーとしてICT化プラントを発信しているような人材を育成できるように環境を作っていく。 リクルート用パンフレットやホームページを作成しリクルート活動において積極的に情報発信を行っていく。実習生の指導体制も強化し、より丁寧で細やかな指導を行うことでリクルートへと繋げていく。 病院や健康組合とも連携し、職員の健康増進に向けた事業を展開していく。
人財	①長期的な人材育成システムの構築 ②アカデミアの追求 ③職員満足度の高い職場環境	キャリアラダー達成率 年間学会発表数 年間投稿論文数 労働時間遵守率 有給休暇取得日数（2年目以上） 有給休暇取得日数（1年目） 職員定着率	100% 35件 3件 100% 7日/人 5日/人 94.2%	市場変化に対応できるジェネラリストの育成 ジェネラリスト養成期間終了後のコース整備 学術・教育活動の積極的発信 学術・教育活動の積極的発信 職員満足度の向上 職員満足度の向上 人材確保と人材配置	OJT実施率 卒後教育指導強化の実施率 協会指定管理者研修/マネジメント学会参 個人年次目標達成率 個人年次目標達成率 残業時間月45時間/年360時間超え人数 4月～12月有給休暇取得日数（2年目以上） 4月～12月有給休暇取得日数（1年目） 勤続年数別離職数（3年未満） 勤続年数別離職数（3～10年未満） 勤続年数別離職数（10年以上）	80% 100% 2名 100% 100% 0人 5日/人 3日/人 3人 2人 1人	管理主任1件/日、技術主任2件/日 講義のオンデマンド配役化 マネージメントラダーの推進 主任管理による定期的な進捗確認 主任管理による定期的な進捗確認 研究委員会を中心とした投稿論文の選 アータ管理、職員管理、部内後の見直し FIM・転倒リスクソフトの一元化 ヤギーDB・計画書管理表の一元化 計画的な取得管理 働きがいのある職場づくり	1日の実施目標を設定し、毎月の実施状況を確認していく。 対面研修に加えて、ICTの積極活用により効率的な学習環境の整備を進めていく。 統括主任以上の役職者に対し協会指定管理者の取得を推進していく。 各班の研究計画立案や研究モデル発表会の開催に加え、役職者による定期的な進捗状況の確認・フォローによって目標達成に向けたサポートを行っている。 日々の業務量の管理に加え、システム化などにより業務効率を改善できるものは積極的に見直しを図っていく。 各主任の管理のもと上層から計画的に有給休暇の取得を促していく。 セブリストとして成長できる環境の整備、業務の効率化を積極的に推進する。